

# 成長戦略 具体化へ着々

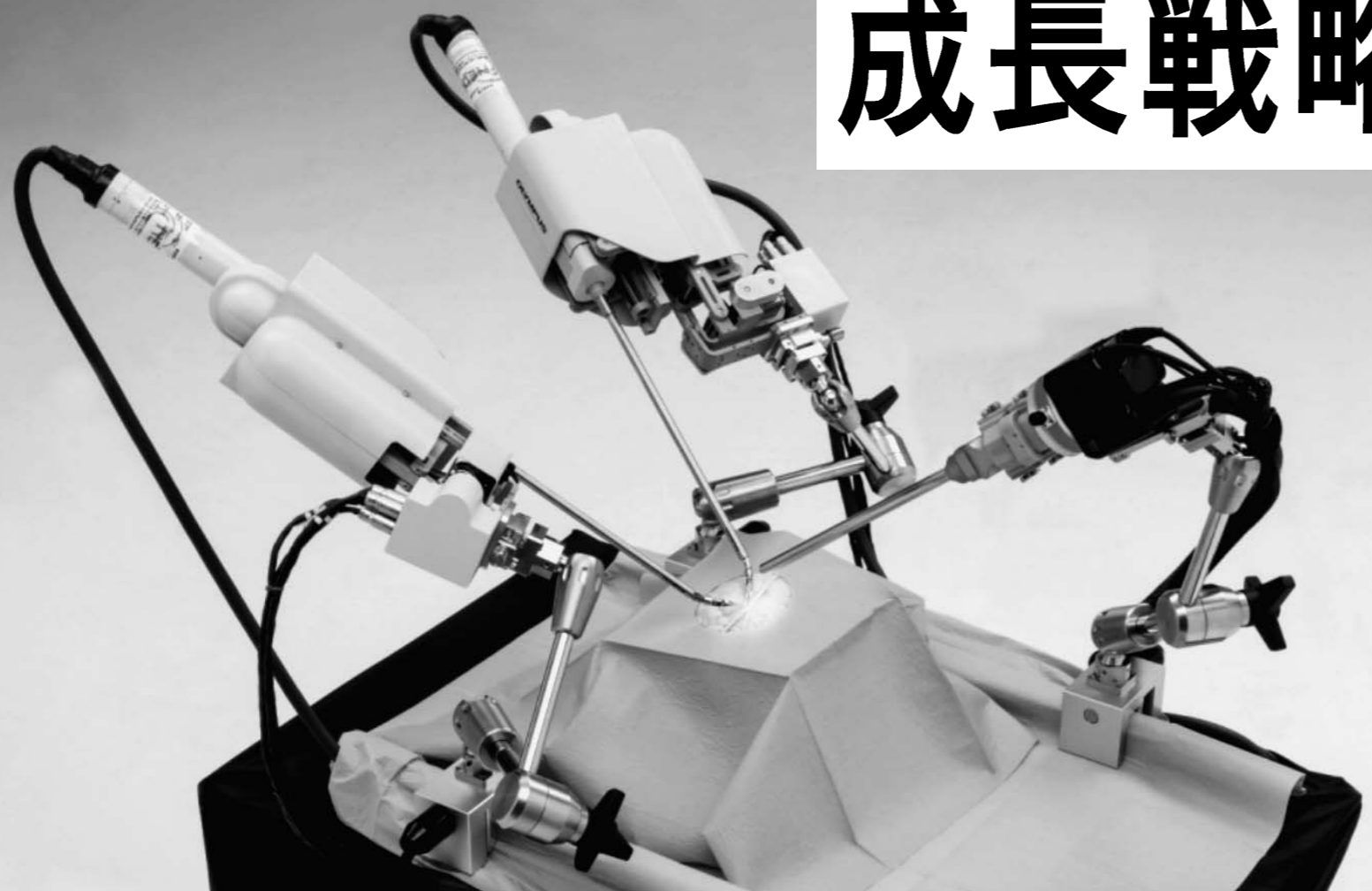
## ■日本発医療機器開発

政府内では医療分野の成長戦略を具体化する取り組みが、着々と進んでいる。2014年度予算の概算要求には政府が米国国立衛生研究所(NIH)にならって15年前半にも新設する独立行政法人(日本版NIH)の研究開発プロジェクトを先行実施する格好で、厚生労働省、経済産業省の3省が合計1382億円の事業費を盛り込んだ。がん研究や再生医療の早期実用化に3省一体で取り組む考えだ。

## がん研究・手術ロボ・輸出

がん研究では文科省が新しい治療や診断薬のシーズの探索、経産省ががんの超早期発見につながる画像診断システムなどの開発に取り組み、厚生労働省がこれらの臨床研究を進めることで、基礎から臨床応用までを一貫して支える。再生医療分野でも文科省による基礎的な研究成果を实践する臨床研究拠点を、厚生労働省が整備する構想だ。医療機器分野では経産省が手術支援ロボットなど次世代医療機器・システムの開発を進め、厚生労働省が薬事承認審査の迅速

化や安全対策の強化に取り組む。大学と医療機器メーカーの連携、優れたモノづくり力を持つ中小企業と医療機関の連携を取り持つ施策も、文科省を含む3省で進める。一方、規制改革会議と厚生労働省の間では医薬品・医療機器の公道価格についた同社がその成果を引き継ぎ、研究開発を続けてきた。同ロボは海外メーカーが先行し、国内でも既に競合製品の導入が進む。後発のオリンパスは消化器系の手術分野に適用範囲を絞り、海外勢を追撃する考えだ。国が成長戦略として医



オリンパスが実用化を目指す手術支援ロボット

## 文科・厚労・経産一体で 大学・メーカーも連携

は三菱電機や東芝、日立製作所、住友重機械工業など国内勢が高い競争力を持つ。がん細胞に粒子

線を中心とした死滅させる仕組みで、正常細胞への影響が少なく、低侵襲で副作用が少ない治療が可能になる。重粒子線がん治療システムを手がける東芝は初の海外進出を目指し、アブジビ首相国やマレーシアへの輸出検討を始めた。

東芝メディカルシステムズ(栃木県大田原市)もコンピュータ断層撮影装置(CT)の海外販



CTを増産する東芝メディカルシステムズ的那須事業所(栃木県大田原市)

## 復権モノづくり

売が好調だ。X線被ばく線量を従来比で最大75%低減できる画像再構成技術を開発し、全ラインアップに標準搭載した。

X線被ばく低減は医療業界の大きな課題であり、同技術を搭載した効果で国内CT販売シェアは50%超に拡大、世界市場でも13年度はGEとシ

ーメンズを抜いて首位を奪取することを目標に掲げた。

医療機器産業が成長を続けるには、日本発の診断・治療機器を創出し、その輸出を拡大していく必要がある。医療機器の国内市場規模は約2兆3000億円と世界市場の1割に満たない。患者負担の軽減は世界共通のニーズであり、国内メーカーは得意とする低侵襲技術でグローバル市場を開拓していかなければならない。

## 医薬品治療から予防へ

日本再興戦略では医療における重点が治療から予防へとシフトする政策が掲げられた。医薬品の価値が治療から予防に移ると、大衆薬品(OTC)やワクチンの重要性が増す。製薬各社はどんな高機を見いだせるだろうか。

大正製薬ホールディングスの上原明社長は、OTCこそセルフメディケーションを促し、医療費圧縮につながる道だ」と説く。大正製薬は7月に

バイオエリミン製品の独占販売権を取得し、10月には子会社トクホンのOTCを自販に切り替え、製品群を強化する。一方で新薬とシネリック、OTC、ワクチンのすべてを抱える企業は意外に少ない。ファイザーやノバルティス、サノフィなどのメガファーマに限られる。日本では第一三共が4事業を抱える。「医療・医薬品全体の動きを実際の事業を通して深く知る」(中山譲治社長)ためだ。

第一三共のワクチン事業の13年3月期売上高は前年比40%増の298億円。13年4-6月期も前年同期比54%増の80億円と順調に推移している。6月には細胞培養方式の新型インフルエンザワク

チンの製造販売承認を申請した。厚生労働省のパンデミック対策の一貫で、半年で4000万人以上の生産能力を整える。武田薬品工業も新薬とOTC、ワクチンを抱える。5月にはワクチン事業強化のために米インビランジェンを買収した。テング熱など開発品と、シンガポールの開発拠点を獲得した。長谷川潤史社長は「日本にも1社くらい世界にワクチンを提供する会社があった方がよい」と熱が入る。

厚生労働省は「医薬品産業ビジョン2013」で、今後の医薬品産業は過去には正解がないとした。多様な事業モデルはしぶとい企業を作るかもしれない。

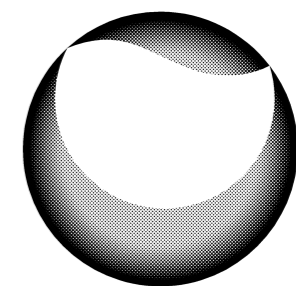


大正製薬が4月に発売した中性脂肪異常改善薬「イパデルT」



### イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

医療技術の進歩とともに、生み出してきた医薬品の数々は、多くの人びとの命を救い、健康的な生活に貢献しています。しかし未だ、治療法が確立されていない疾病も多く存在するという現実。そこに、第一三共の大きな使命が残されています。革新的医薬品を創出し、多様な医療ニーズに応え、世界中の人びとの健康で豊かな生活を支えていく。私たちの情熱がやがて、ひとつでも多くの笑顔につながる、その日まで。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社